

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770700417		
法人名	社会福祉法人 篤心会		
事業所名	社会福祉法人 篤心会 エルピスホーム(ユニット名:虹)		
所在地	〒962-0813 福島県須賀川市和田字沓掛48-1		
自己評価作成日	平成23年7月29日	評価結果市町村受理日	平成23年11月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do">http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20		
訪問調査日	平成23年9月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

身体機能の低下や認知症の重度化が見られるが、利用者が安心して生活できるように健康管理に気を配り、協力医療機関と連携を図っている。日常的な外出は困難であるが玄関先の草花の手入れや水やり、外気浴を楽しむ等の日常的に楽しみながら活動出来るような環境作りに努めている。また、エルピスホームは果樹園の広がる地域の一角にあり、目の前を通る道路は空港へと繋がりが、のんびりとした中にも、人々が行き交う様子が見られている。近くには牡丹園があり、様々な四季の様子を感じながら過ごして頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 利用者の生活状況(介護、医療面)を毎月家族に報告する等、きめ細かな心配りがされており、家族の信頼度も高い。
2. 協力医との医療連携が取られており、また、緊急時の24時間オンコール体制も整っており、適切な医療が受けられるよう支援されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼で職員全員で理念を唱和している。理念を常に念頭におき、統一したケアの実施に日々努めている。	事業所理念を事業所内に掲示すると共に、毎朝唱和をし理念を共有して実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩などで挨拶を行ない交流を行なっている。また、震災の影響もあり少し交流が出来ない部分もあった。	日頃の挨拶等は行われているが、地域との関わりが少なく、ボランティア等の受け入れについても十分とは言えない。	町内の自治会に加入すると共に、地域行事への参加や事業所内行事への参加呼びかけ、ボランティアや実習生の受け入れなどとして、地域との交流を図って欲しい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護主任が認知症キャラバンメイトとして行政担当者とともに認知症サポーター養成講座を行ない、須賀川市民の認知症の理解や支援が得られるように取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の定期的な運営推進会議を開催。家族会代表、民生委員、地域包括センター、地域住民代表などの会議メンバーで構成。事業所の現状報告をして意見や助言を頂き、サービスの向上に日々努めている。	定期的に開催されているが、事業所からの積極的な課題提起がなく、事業所運営に十分活かされていない。また、委員に構成についても、幅広い分野からの参加が望まれる。	行政、消防関係者等からも必要に応じて参加要請をすると共に、積極的な課題提起を行い、事業所運営に活かして欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が定期的な市の会議に参加し情報交換を行っている。また運営推進会議に市の職員の参加を依頼し、協力関係の構築に取り組んでいる。	管理者が市の会議等に参加し、情報交換を行い協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、玄関は施錠せずチャイムを設置し外部の来客者が分かるようにしている。拘束について職員は研修会に参加し、意識の向上と実践に取り組んでいる。全員の周知徹底を図る為、ミーティング、連絡ファイル等活用し口頭や文章で伝えている。	身体拘束をしないことを事業所方針として掲げ、研修会に参加させ共通認識を図り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、玄関の施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法を研修やミーティング等で学び、職員全員に浸透、厳守がされるよう話し合い実行し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加した職員により、利用者の状況によって必要な支援が受け入れられるように取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時に十分な話し合いをし、金銭面や不安・疑問点などを必要に応じて支援している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	近況報告を面会時や電話にて家族へ報告している。その際、要望などがあるか確認を取っている。家族と信頼関係を築き、信頼関係に努めている。	家族会が組織され運営推進会議に代表者が出席している。日常的には面会時や電話で意見・要望を聞くよう努めている。また、法人として満足度調査を実施して運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニット内にて、職員間での意見交換をしている。また、月1回の全体ミーティングにて提案事項や意見などを報告し、話し合いの場を用いている。その結果を働く意欲の向上につなげている。	日常的には会議の中で意見交換が行われている。また、管理者、ユニットリーダーが、職員の意見や意向を聞き運営に反映させている。さらに、個別面談を行い職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内、人事考課制度において職員の課業達成度等を把握し、資格取得、昇進、賞与へ反映させることで、各職員のやりがいや向上心を持って業務遂行できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数や段階に応じた、各個人の目標、外部研修、内部研修による職員間での共有に努め、日々の業務に活かしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会主催の研修に参加することで、他の事業所と情報交換に努めている。また、グループホーム職員交換研修にも参加し、サービスの向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より本人の思いを確認しながら必要なサービスの提供を行ない、安心して入居して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者、ご家族の不安・悩み・要望等に耳を傾け、それぞれの思いを把握し、ホームの援助方針を話し合い確認しながら信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に担当ケアマネや利用者に関わっていた方などと連携を図り、利用者、ご家族がその時必要としている支援を見極め、その他のサービスも含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、残存機能を活かしながらできる事は行なって頂く。サポートが必要な方には一緒に行ない関わることで共に喜びを分かち合い信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の連絡を密にし、利用者の状態を報告する。場合によってはご家族へ相談し、支援をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親類や友人の方が来訪された際にゆっくり過ごせるような環境作りに努めている。利用者の馴染みの場所へ外出するなど関係が途切れないような支援に努めている。	家族、知人等の来訪時はゆっくりして頂けるような環境に配慮している。また、事業所として外出や外泊の支援を行い、関係性が途切れないようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握した上でテーブルの配置を考慮したり、一緒に散歩や入浴をしたりと一人一人が孤立しないよう、またトラブルにならないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の特養ホームへ入居された方に関しては、面会を継続している。退居された方の情報も家族や他事業所へ伝え連携等の支援を行なっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の意見を表出できる方には暮らし方の希望・意向を尋ね把握に努めている。また、意見表出の困難な方に関しては、日頃見せる表情・行動・家族や関わりのある方々の情報により、職員間で話し合い共有しケアに活かせるよう努めている。	日々の生活の中から利用者の思いや希望を把握している。また、意思疎通の難しい利用者には表情や仕草から思いや意向を汲み取り、利用者本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の会話からの把握。また、家族面会時に家族に尋ね生活歴や暮らし方、サービスの利用経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の身体機能、認知症の状況を観察し、総合的に全職員が現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員がカンファレンスに参加、サービス担当者会議を開催し職員から多面的な意見交換を行っている。看護師や併設特養の管理栄養士などの意見や利用者、家族の要望を反映した利用者主体の介護計画を作成するよう努めている。	利用者、家族の意向を踏まえ、各分野の意見等を加味して介護計画を作成している。また、状態変化に応じて現状に即した計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に日常的なことはもちろん、利用者同士の会話や家族面会時の様子や要望、本人の発した言葉をそのまま記入している。ケアプランに沿った記録を記入し、ケア実践や経過を把握し介護計画作成に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人内の事業所(特養ホーム、小規模)と連携し、利用者の方との交流やレクリエーションへの参加を実施している。また、その都度、生まれるニーズに対応できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の直売所へ行き、好みの物を購入していただいている。慰問のボランティア見学や合同行事に参加。一人一人が地域の方々と交流できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に受診体制を利用者のご家族に確認して希望通りに支援している。受診時は職員が同行して受診結果はその都度家族へ報告している。必要に応じて受診や往診をしてもらえる協力病院との体制作りができています。	本人や家族が希望する医療機関を継続受診できる。殆どの利用者が協力医療機関を希望し職員の付き添いで受診し、結果も家族に報告され共有されている。また、看護師、協力医療機関と24時間連携が取られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の利用者の状態を確認してもらい変化があれば報告、相談して指示を仰ぎ対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、少なくとも1日おきに面会に行き洗濯物の交換をしている。その際、病院関係者と情報交換や相談を行ない関係性を密にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取りの指針」が作成され、契約時に利用者や家族に説明し同意をもらっている。身体状態や必要に応じて話し合いを行ない、職員間で方針の共有に努めている。	事業所の看取り指針により、事前意向確認書をもとに、本人と家族に説明し意向を再確認し同意を得ている。また、状態変化の状況により、職員立ち会いのもと家族、医師が話し合い、全職員が情報を共有しながら支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成しており、看護師による指導・訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議の日に会議に参加された委員の皆さんとともに避難誘導訓練を実施している。また併設、特養での防災訓練に毎月参加し内容の報告を行なっている。	法人内事業所共同による防災委員会と防災訓練が毎月実施され、消防署の立ち会いも2回行っている。今年度は運営推進会議の委員の参加による避難訓練も実施されているが、事業所単独の訓練が少ない。	事業所単独の訓練回数が1回と少なく、事業所の状況を踏まえた、各種防災訓練を数多く実施されることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人を把握した上で人格を尊重した声掛けや対応をしている。	利用者の個性を尊重し自尊心やプライバシーを損なわない声かけや対応をするため、接遇マニュアル等により研修を実施し周知徹底している。書類は事務室の書庫に施錠保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意思を尊重し自己決定できる場を作っている。意思表示が困難な利用者も表情や仕草から思いを読み取れるようにコミュニケーションを図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の意思や思いを尊重し、利用者のペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧の好きな利用者には化粧の介助を行ったり、マニキュアを塗ったりとそれぞれ利用者が気分よく過ごす事が出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食事の下ごしらえやお茶の準備等利用者と職員が一緒に行っている。また、一連の流れを一緒に行う事で食事の場が楽しくなるよう支援している。	献立は作成されているが、その日の利用者の意向に沿い、献立を変更して対応している。下準備から利用者も食事作りに参加し、利用者と職員がテーブルを囲み食事を摂りながら楽しい食事となるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人内の管理栄養士に相談し、個々の利用者に応じた食事を提供している。また、食事量、水分量をチェック表にて確認しながら摂取確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自分で行える利用者には声掛けを行ない、介助が必要な利用者には口腔ケアの介助を行っている。また、就寝前に義歯洗浄剤を使用し、義歯の清潔に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の生活リズムを把握した上でさり気なくトイレの声掛けや誘導を行なっている。また、失敗のある利用者には排泄チェック表やセンター方式を利用し排泄のリズムを把握し失敗の軽減に努めている。	排泄チェック表等により排泄パターンを把握し、羞恥心に配慮しながら、その人に合った声掛けや誘導により自立に向けた支援をしている。その結果改善された方も見られる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ自然排便が出来るように食物繊維や乳製品等を取り入れた食事を提供している。また、腹部マッサージや軽い運動などを実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の利用者の希望に合わせて入浴支援を行なっている。ホーム内浴槽で入浴困難な利用者には同法人内の機械浴で安全に入浴を行なっている。	毎日入浴でき、利用者の希望に合わせた入浴支援を行い、希望により夜間の入浴も実施している。身体状況により、併設特別養護老人ホームの浴槽を利用しその人に合った入浴支援もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の利用者の活動状況や体調に合わせて休憩時間を設けるよう努めている。居室だけではなく居間でも横になれるよう環境作りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の利用者の薬について、医師や看護師の説明や処方箋、薬事典等を用いて理解している。症状に変化があった時は速やかに看護師や医師に連絡し指示を仰ぐことが出来る体制が出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴を把握し、馴染みのある事を提供したり馴染みある場所へ外出し気分転換に努めている。また、家事に参加したり職員と一緒に買い物へ出かけたりと個々の利用者が生き生きと過ごす事が出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に応じて、季節感を感じる事の出来る場所へのドライブや買い物、散歩に出かける機会を作っている。また、家族の協力のもと外食や自宅への外出も行なっている。	利用者の希望に沿い、花見、公園散策、紅葉狩りを実施し、日常的には買い物やドライブに出かけ外出できるよう支援している。また、家族の協力で墓参りや誕生祝いの食事会などへ外出している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からの預かり金をホームで管理している。利用者の希望時には職員と一緒に買い物へ行っている。また、買い物へ行く事が困難な利用者には希望の物を本人の預かり金から購入する事を理解していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書いたり電話をする事は個々の利用者の状態により難しい状況であるが手紙が届いた際には職員が代読している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の花や装飾などを施し、季節の変化や時の変わりを感じることができる空間作りに努めている。また、利用者の好む音楽をBGMで流し穏やかに過ごすことができるよう配慮もしている。	共用空間は、利用者の作品や季節の花が飾られ、畳敷きスペースも広く、利用者が心地良く過ごせるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子を設置し、近くには花を飾ったり写真を掲示し寛げる空間作りに努めている。利用者同士で談話する姿や居間で日光浴をする姿などが見られている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	個々の利用者に合わせた安全で安心して過ごすことができる居室になっている。馴染みの物や好きな物などを自室に配置することでよりその人らしい愛着のある居室となっている。また、家族と一緒に撮った写真を飾り穏やかに安心して頂けるような配慮もしている。	整理タンス及びテレビは常備されているが、使い慣れたタンスやビデオデッキ、家族の写真、仏具などが持ち込まれ、自分で作った作品を飾り生活感のある部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者自身でスムーズに行なう事ができるような環境整備を心掛けている。居室やトイレ、浴室などの場所がわかるような表示や何を行なうかについて説明書きを掲示するなどできるだけ自立して生活が送れるよう配慮している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770700417	
法人名	社会福祉法人 篤心会	
事業所名	社会福祉法人 篤心会 エルピスホーム(ユニット名:空)	
所在地	〒962-0813 福島県須賀川市和田字沓掛48-1	
自己評価作成日	平成23年7月29日	評価結果市町村受理日 平成23年11月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do">http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会	
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20	
訪問調査日	平成23年9月14日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

身体機能の低下や認知症の重度化が見られるが、利用者が安心して生活できるように健康管理に気を配り、協力医療機関と連携を図っている。日常的な外出は困難であるが玄関先の草花の手入れや水やり、外気浴を楽しむ等の日常的に楽しみながら活動出来るような環境作りに努めている。また、エルピスホームは果樹園の広がる地域の一角にあり、目の前を通る道路は空港へと繋がりが、のんびりとした中にも、人々が行き交う様子が見られている。近くには牡丹園があり、様々な四季の様子を感じながら過ごして頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼にてその日の担当職員の号令の後に出勤職員全員で理念を唱和している。理念を常に念頭におき、統一したケアを心掛けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の方々とは、日頃より挨拶を行ない野菜や果物の差し入れを頂くなど交流を行なっている。また犬好きの入居者と共に訪問している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護主任が認知症キャラバンメイトとして行政担当者とともに認知症サポーター養成講座を行ない、須賀川市民の認知症の理解や支援が得られるように取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の定期的な運営推進会議を開催。家族会代表、民生委員、地域包括支援センター、地域住民代表などの会議メンバーで構成。事業報告を行ない、様々な視点から意見や助言を頂き、サービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者が定期的な市の会議に参加し情報交換を行っている。また運営推進会議に市の職員の参加を依頼し、協力関係の構築に取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間と留守の際、以外は玄関の施錠は行なわず、チャイムを設置し外部の来客者がわかるようにしている。身体拘束については、職員が内外の研修に参加し意識向上と実践に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内外の研修等で、高齢者虐待防止法について学び、職員全員で虐待について日頃かから、話し合いを実施し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加した職員により、利用者の状況によって必要な支援が受け入れられるよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約時において経済的な不安や個人情報等を含め状況に応じて相談、支援している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会において家族同士の意見交換の場を設けたり、面会時に積極的に関わりを持ち雰囲気作りに心掛けている。またアンケート結果をケアに活かせるよう心掛けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体ミーティングにて管理者と職員間で意見交換をしている。また年2回の個別面談を行ない職員より出た意見や提案を管理者へ報告し働く意欲の向上につなげている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内、人事考課制度において職員の課業達成度等を把握し、資格取得、昇進、賞与へ反映させることで、各職員のやりがいや向上心を持って業務遂行できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数や段階に応じた、各個人の目標、外部研修、内部研修による職員間での共有に努め、日々の業務に活かしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会主催の研修に参加することで、他の事業所と情報交換に努めている。また、グループホーム職員交換研修にも参加し、サービスの向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より面談を行ない本人の思いを伝えやすい雰囲気を作り、安心して入居していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在、利用者、家族が抱えている問題や、介護における意見・工夫・苦労、今後の希望・要望を受け止め、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に担当ケアマネなどと連携を図り、本人・家族にとって問題解決に結びつくような支援を見極め各関係機関への協力もお願いしながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人一人のの人生経験から苦労や体験談を教えて頂いたり、家族等より情報を頂きながら共に支え合い生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族への連絡を密にし利用者状態を報告、必要時は、ご家族への支援をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親類や友人の方が来訪された場合はゆったり過ごせるような環境を提供している。また利用者の馴染みの場所への外出をすることで継続的な支援を行なっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に会話する機会を設け、利用者同士が楽しく交流できるようなテーブルの配置をし、一人ひとりが孤立しないように、またトラブルにならないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約解除後も、家族に対して必要であれば相談・支援を行なっている。また特老ホームへ入居された方に関しては面会を継続している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、表情や行動、利用者の言動から思いを察し、本人のペースに合わせて確認出来るよう心がけています。また家族からの情報にて職員間で話し合い共有しながらケアに活かすようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者との日常会話の中からや家族の面会時に生活歴や暮らし方、サービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの身体機能、認知症の状況を観察し、全職員が共通理解できるよう取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員がカンファレンスに参加し、意見交換を行い、利用者やご家族の要望を反映し、尚且つ、個別性を尊重した介護計画を作成するよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録には本人の言葉をそのまま記録に残している。またケアプランに添った記録を記入し、ケアの実践や介護計画作成に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人内の事業所(特養ホーム、小規模)と連携を図り、利用者の交流やレクリエーションへの参加などを行うことで生まれる新たなニーズに対応できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、利用者、家族が抱えている問題や、介護における意見・工夫・苦勞、今後の希望・要望を受け止め、信頼関係の構築に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に受診体制を利用者のご家族に確認し支援している。職員が受診に同行し、受診結果はその都度家族へ報告している。必要に応じて受診や往診をしてもらえる協力病院との体制作りができています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	午前、午後にそれぞれ状況報告を実施し、確認してもらい、また変化が見られた際には、報告、相談し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中については少なくとも1日おきに病院に面会に行き、洗濯物の交換を行っている。その際、病院関係者と情報交換を行ない関係性を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針が作成され契約時に利用者と家族に説明し同意を得ている。また、医療についての事前確認書を記入して頂いている。身体状況や必要に応じて話し合いを行ない職員間でも方針の共有に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルが作成されており、看護師による指導訓練、外部研修への参加を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議の日に会議に参加された委員の皆さんとともに避難誘導訓練を実施している。また併設、特養での防災訓練に毎月参加し内容の報告を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの性格やプライドを大切にし人格を尊重した言葉使いを心がけ、その時々への対応について職員間でも話し合い対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりの心身の状況を見極め言葉以外での訴えに対しても、自然に把握し、出来る限り自己決定が出来るよう対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「あれが食べたい」等の訴えがあれば、外食や出前などで対応している。また欲しいものがあれば出来る限り買い物に出掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際には一緒に洋服を選んだり、化粧や毛染めの介助を行ったりとその人らしい身だしなみやおしゃれを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	職員と一緒に出来る範囲内で野菜の下準備や調理、盛り付けなど楽しみながら行っている。食事は、利用者も職員も一緒に食卓を囲み一人ひとりがゆっくり食事が出来るよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は食事摂取以外で、飲みたいとの希望があればその都度提供しています。また食事量は個人のケース記録に記入し摂取量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に限らず、起床後などにも実施。特に夕食後は念入りに実施し、義歯洗浄剤なども使用している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在、ほとんどの入居者がオムツまたはリハビリパンツを着用している。訴え時にはもちろん、定時の声掛け、仕草などでも読み取り、失敗のないように支援している。しかし、状態の低下が著しくオムツの使用を減らすのは難しい。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来る限り自然排便が出来るよう食事に乳製品や食物繊維を多く含んだ食事を提供している。また自然排便が困難な方には、水分調整を行い便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を拒否される方が多い為、声かけの方法やタイミングを工夫している。また状態に合わせて、足浴や併設特養の機械浴等も利用している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの活動状況、体調、生活習慣に合わせて休息する時間を設けている。また冬はこたつで眠ったりと安心して休める家庭的な雰囲気作りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの薬について医師や看護師の説明を受けたり、処方箋や薬事典を活用し理解している。症状や内服量に変化があれば速やかに看護師や協力病院に連絡し指示を仰ぐことが出来るような体制ができています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	継続的な声かけにて、役割を持つ喜びを感じてもらっている。また昔から行なっているような趣味など、それぞれが力を発揮できる様に工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調や天候に合わせて、積極的に声かけをし外に出る機会を設けている。また家族の協力のもと、ドライブや外食などに出掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金の中から利用者と一緒に洋服を買いに行ったり欲しいものを代行して買ってきている。また、支払いの際は利用者本人に支払いしてもらい買い物をする楽しみを味わって頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話連絡する際は、利用者と家族が話せるように配慮している。また、字の書けない利用者には職員が手を添えて名前を書いてもらったり写真を送るなどの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓を開放し、自然の風を肌で感じてもらったり、写真や個人の作品を装飾し季節感を味わって頂いている。また、利用者が不快や混乱をまねかないように生活環境にも配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関や廊下にソファや椅子、居間にはこたつを設置している。利用者通しの関係性に配慮しながら、一人で過ごしたり気の合う利用者通しで思い思いに過ごせるような空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	利用者の使い慣れているものや馴染みの物を持参してもらいその人らしい居室作りを行ない、安心して居心地良く生活出来るよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者に合わせて、家具やテーブルの配置を変えたり、居室やトイレ、浴室の場所などがわかり易いように表示の工夫をしている。また、残存機能を活かせる様な環境作りに努めている。		